

幕末の志士とイギリス商人たち

長崎総合科学大学
環境・建築学部

ブライアン・バークガフニ

安政元年
(1854)

オランダ国王から将軍へ献上するため、オランダ東洋艦隊所属の軍艦が長崎に入港。蒸気船スピン号は「観光丸」と名付けられ練習船になる。海軍伝習所の準備は整う。

安政4年
(1857)

幕府がオランダに発注した新建造軍艦ヤッパン号(のちの咸臨丸)が長崎に入港。オランダ海軍医ポンペなど第2次海軍伝習教官隊一行37人が乗船。

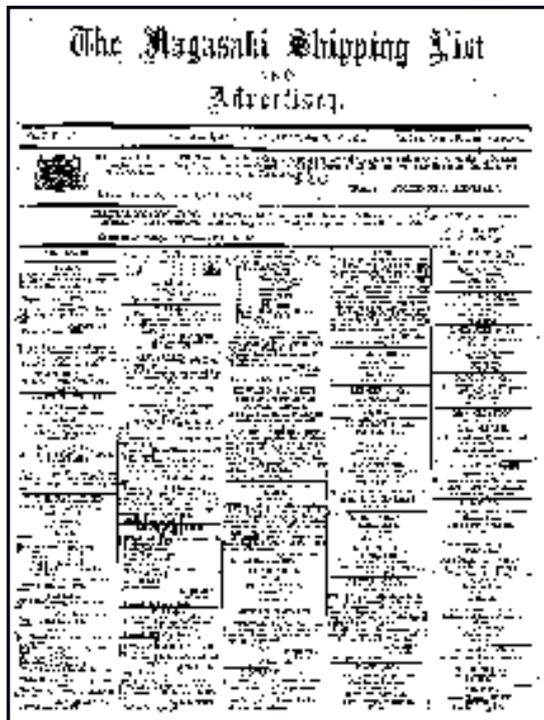
同年11月、勝海舟が海軍伝習所頭役として来崎し、オランダ士官より航海術の訓練を受ける。



勝海舟

大浦外国人居留地の設立

安政6(1859)年	前年の安政五ヶ国条約締結により開港
万延元(1860)年	第1次居留地造成(大浦地区埋め立て)
文久元(1861)年	第2次居留地造成(下り松地区埋め立て)
	同年4月、居留地への移動と住宅や社屋の建設が始まる
	同年6月、英字新聞「ナガサキ・ SHIPPING・リスト・アンド・アドバタイザー」発刊



文久元年(1861年)に発行された日本最初の英字新聞「ナガサキ・SHIPPING・リスト・アンド・アドバタイザー」

Nagasaki, 22nd June, 1861.

INTERNATIONAL BOWLING SALOON,
Hirohata Street.

The undersigned respectfully begs leave to inform the Community that his Bowling Saloon is now open for the reception of visitors. A fresh supply of the best description of Wines, Spirits, &c., will be sold at very moderate prices.

The Proprietor trusts that by strict attention to business he will merit and receive a share of Patronage.

HENRY GIBSON.
Nagasaki, 22nd June, 1861.

LI-AH-NHUI.

私儀、署名者は居留地の皆様方へ「国際ボウリング場」の開設を慎んでご通知申し上げます。最高級銘柄のワイン及び様々な種類の酒を格安にて販売致す予定で御座います。従業員一同、誠心誠意お客様へのサービスに努める所存で御座いますので、御引き立ての程何とぞ宜しくお願い申し上げます。

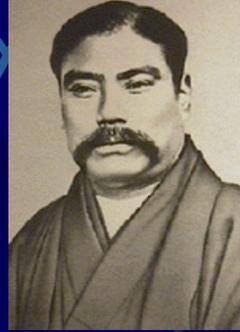
ヘンリー・ギブソン
1861年(文久元年)6月22日、長崎



ねずみ島でピクニックを楽しむ居留地の人々、慶応元年(1865)ごろ

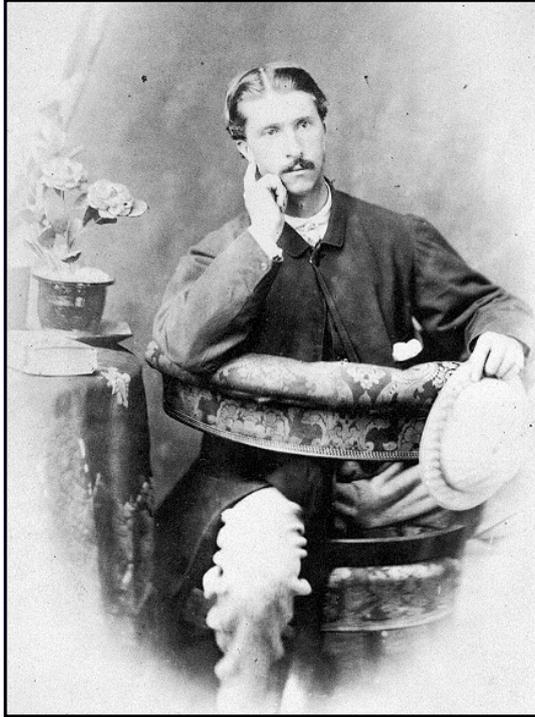


ウィリアム・J・オルト
(安政開港から9年間長崎滞在)

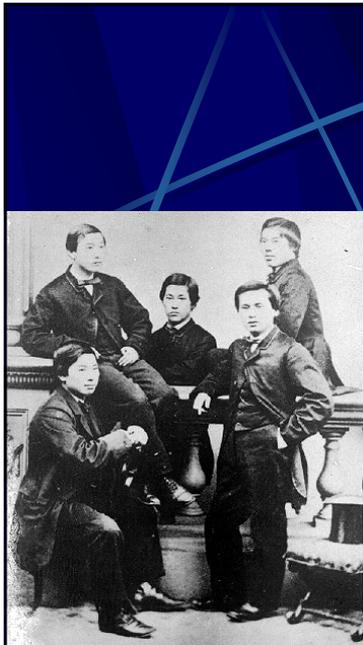


岩崎弥太郎
(三菱商会の創立者)





トーマス・B・グラバー
Thomas B. Glover
(1838-1911)



英国に留学した長州五傑

外交の父: 井上聞多(馨) [いのうえ かおる]

造幣の父: 遠藤謹助 [えんどう きんすけ]

工学の父: 山尾庸三 [やまお ようぞう]

内閣の父: 伊藤俊輔(博文) [いとう ひろぶみ]

鉄道の父: 野村弥吉(井上勝) [いのうえ まさる]

薩摩藩士の英国留学について

文久3年(1863年)の薩英戦争において、西欧文明の偉大さに痛感させられた薩摩藩は、幕府の鎖国令を犯して、慶応元年(1865年)15名の留学生と4名の使節団を英国に派遣した。

全員が変名を使い、出張という名目で慶応元年(1865年)4月17日の朝、トーマス・グラバーが用意した蒸気船で密かに英国へ旅立った。

当時留学生一行の面倒を見ていたのは、グラバー商会の若い社員ライル・ホーム。



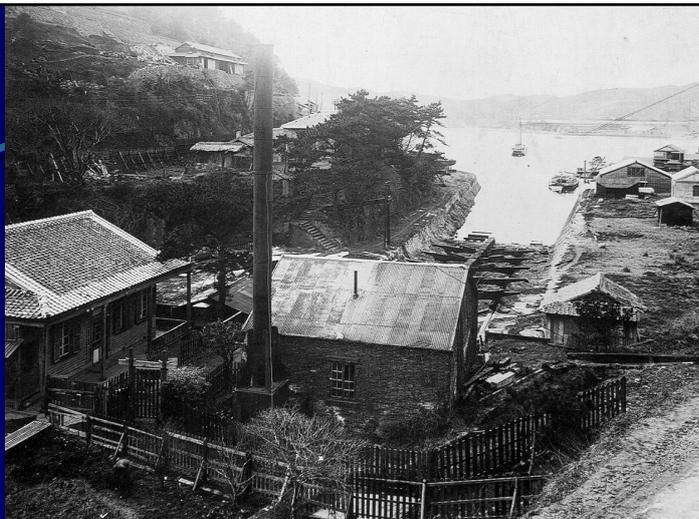
日本最初の洋式紡績工場 鹿児島紡績所跡と異人館

慶応元年(1865) 五代友厚が留学先のイギリスで紡績機械の買い入れと技師を招く交渉にあたった。

慶応2年(1866) E・ホーム他三人のイギリス人技師が鹿児島に到着し、工場の建設にとりかかる。翌年正月、紡績機械につきそって、工務長のジョン・テットロウ他二人も到着。

慶応3年(1867) 日本で最初の近代的な紡績工場が誕生し、生産を始める。

紡績技師のE・ホームは、薩摩藩の留学生に同行したライル・ホームの兄で、明治元年(1868)、イギリス人フレデリック・リンガーと共に「ホーム・リンガー商会」を長崎に開設した人物である。



小菅修船所

明治元年(1868)12月に完成した日本初の西洋式「スリップドック」。翌年、明治政府が買収し、明治17年(1884)、三菱所有となる。





現在の小菅修船場
(国指定史跡)